

桜の女神・

このはなのさくやひめ

四月に入り、まさに春本番です。春と言えば「桜の花見」ですが、もうお出掛けになりましたか？

そんな桜にはとても強いパワーが秘められているのをご存知だったでしょうか？そこで今回は、桜の花が持つ開運パワーと、お花見で運氣を上げる開運テラについて、ご紹介してまいりたいと思います。

「お花見」が始まった謂ひわれについてですが、元々は神様をお祀りする行事でございました。日本神話に登場される、絶世の美女と言えは、**木花咲耶姫**（コノハナノサクヤヒメ）です。実は、桜の神様と言えは、ズバリ！木花咲耶姫という事で、古来より人々に尊崇されてまいりました。

木花咲耶姫は、古事記と日本書紀の両方で登場しますが、本名が違います。ちなみに古事記では「**神阿多都比売**（かむあたつひめ）」で別名が「**木花之佐久夜毘売**（コノハナノサクヤヒメ）」です。

一方の日本書紀には、本名が「**神吾田津姫**（かみあたつひめ）」で別名を「**木花開耶姫**（コノハナノサクヤヒメ）」と呼びます。厳密に言えは、神様の呼び方は色々ございまして、コノハナノサクヤヒメ。コノハナノサクヤヒメ。コノハナノサクヤヒメ。あるいは、サクヤヒメと簡単に呼ばれることもございます。

竹取物語のかぐや姫のモデルにもなったといわれる、**国津神**という神様でございませう。

そんな日本神話に登場される女神様は、「**桜の花が咲き誇るように美しい女神さま**」と尊ばれまして、「**桜の花の化身**」とされる絶世の美女神様でございませう。そんな木花咲耶姫は、神話の中で物語から、様々な「**利益・御神徳**（ごしんとく）」がある神様とされます。農業の神、海上安全の神、航海安全の神、縁結び、子宝、安産をはじめ、火や山の災難除け、機織り、酒造繁栄などが挙げられます。木花咲耶姫ご自身が、火の中という大変な状況の中での出産だったと言え、安産だった事から、子孫繁栄のパワーもお持ちであると言ひ伝えられてきました。

美と良縁から子孫繁栄まで、女性にとつてはまさに強い味方となる女神様です。日本では日本書紀が登場する以前から、「**サ神**」という田植えの神様を信仰しておられたようです。「**サクラ**」の「**くら**」という言葉には、「**鎮座する場所**」という意味がありますので、「**サクラ**」と言えは、「**神様が鎮座する場所**」という意味になります。

「**サ神**」は田植えの時期に山から降りてきて、桜の木に宿ると信じられていたため、神様には少しでも長くいてもらうことで、豊作に恵まれるようにと、桜の花の下で宴を催したのが、花見の起源とされています。

桜の花には、体にたまった悪い気を取り除き、良い運氣を運び込む浄化パワーがあるとされます。まあ確かに桜を愛でる一時は、日常の喧騒を離れて、大自然に返れる時間でもありますし、嫌な事があっても桜を愛でることで、溜まったストレスが解

消された！というご経験を持つ方も少なくないと思ひます。

●【お花見で開運する方法】

お花見で開運する方法というのは？お花見へは3回行くのが良いとされています。それでは一つずつ解説してまいります。

▼【1回目のお花見】は、桜の開花し初め

た頃にお花見に行けば、生命力溢れる未来への希望です。咲き始めの桜は、「**開花**」の名の通り、生命力や未来を象徴します。で、これから先の未来に、幸運が沢山やってくることを、木花咲耶姫に願うのが宜しいかと思ひます。例えば「**素敵な出会いに恵まれますように**。そんな素敵な人と結ばれますように。元気な赤ちゃんを授かりますように。良好な人間関係にも恵まれ、自分らしくお仕事で活躍できますように」などのように、未来へ向けたあなたの希望を念じ届けていただければ幸いです。

▼【2回目のお花見】は、満開時の桜です。

満開の桜というのは、繁栄や財力を象徴します。そんな満開の桜を愛でながら、感謝の気持ちを念じ届けましょう。「これから先も、家族の幸せが続きますように。事業が繁栄しますように。子供達が皆仲良く、元気に活躍していきますように」など、大切な人を思い浮かべたり、現在の生活がより良く発展することを願われるのが宜しいかと思ひます。

▼【3回目のお花見】は、散り際の桜を愛

でます。散り際の桜は、浄化や厄除けの象徴ですから、桜吹雪を全身に浴びながら、過去の良い流れをイメージしてみましよう。その過去への思いが、舞い散る桜吹雪によって、浄化厄除けのお力を授かれるものと思ひます。例えば「**悪い縁を断ち切れますように**。とか、病が早く快方に向かいますように。身心に抱える辛い状況から解放されますように」と心に念じながら、桜吹雪に身を委ねて、これまでの人生から、取り除きたい脱却したいものを思い描きながら、今後状況が良くなることを願ひましよう。その思いがあなたを浄化させて、厄を祓い落としてくれるはずですよ。

そんな3度のお花見を通して、心に念じられた念いは、木花咲耶姫に届き、ご利益を授けて下さると思ひます。

この邪気祓い効果は季節限定ですので、桜満開の今の季節に、是非お花見に出掛け、絶世の女神様から「**ご利益を授かりましよう**」そんなお花見で間違いなく運氣を上げる開運アクションがございませうので、ご紹介いたします。

●【お花見で運氣を上げる開運作法】

▼【1つ目】桜の神様に感謝の気持ちを伝える

桜の花見に出掛けたら、まずは、今年も心安くお花見ができることに感謝いたしましよう。有名なお花見スポットの多くは、神社仏閣がございませう。お花見を始める前に、まず最初にお近くの神社へ必ずご参拝になつて下さい。

日頃の感謝の気持ちと、お花見をさせて頂くことの報告を致しましょう。お花見と言えば宴会状態でマナーが悪い方もいらつしやるようです。後片付けもそこに、お花見の宴会で出たゴミをそのままにして帰るとか、大声を出して騒いで、周りでお花見をしている人の迷惑を考えない人とか、眉をひそめてしまうような人も少なからずいらつしやいます。「飛ぶ鳥跡を濁さず」です。楽しむのは悪いことではないし、賑やかな方が、桜の女神様である木花咲耶姫も楽しめるのではないかと思います。ただし、冒頭でもお話しした、お花見の起源を思い出してみよう。元々は桜の神様・木花咲耶姫をお祀りする行事でした。桜の神様への礼も尽くさず、どんちゃん騒ぎしているだけのお花見は、神様に失礼ですし、せっかく授かれるご利益も授けて頂く事は出来ません。しっかりと礼を尽くす意識を持ちましょう。あと、お花見と言えば場所取りをなさる方もいらつしやいます。神様は、自己中心的な人を一番嫌います。みんなで桜の美しいお花をシェアする、譲り合いの気持ちをお忘れず持ちましょう。浮かれる自分の心を鎮めるためにも、まずはお近くの神社へ、感謝の気持ちを捧げに行きましょう。もし神社が無いお花見スポットであれば、桜の神様・木花咲耶姫に感謝の念を手向けることを忘れず行っていきましょうね。

▼2つ目『桜の枝や花びらは触れない』

桜の木を傷付けないように注意しましょう。「桜切る馬鹿・梅切らぬ馬鹿」と

言う庭木の剪定法をいった言葉なのですが、桜は枝を切つたり、払つたりすると、桜の木はそこからすぐに腐つてしまいます。ちなみに、桜の枝を折つてしまうと、他人の物を壊したと認定されて、『器物損壊罪』が成立してしまいます。3年以下の懲役または30万円以下の罰金か科せられるのが日本の法律です。開運どころか、運氣は爆下がりです。ただただ綺麗だからと悪気は無く枝を折ってしまったら、後の祭りです。お花見へ出かけたなら、桜の木に宿るパワーを直接吸収したいと思つて、木に触れたり、思い切り抱きついたりしている姿をお見受けすることもありますが、ああいうのは控えるようにしましょう。神様が宿る木と言え、神社の境内にそびえ立っている御神木もそうです。何も抱きついたりせずとも、真摯なお気持ちからの念があれば、十分にお力を授けていただけです。もし抱きついたり、木に触れるだけでパワーを授かれるのなら、私もいの一歩抱きついていると思えます。抱きついたりしてパワーは授かれませんが、むしろ罰当たりなNG行為という事を覚えてくださいなね。運氣が上がるどころか、下げる事になってしまいますよ！

▼3つ目『舞い散る花びらを浴びる』

お花見に行かれた時に、舞い落ちた花びらを拾つて、お守りになさっている方もおられますが、舞い散る桜の花びらは、とても強い浄化のパワーを秘めております。全身に桜吹雪を浴びる時、ぜひ意識なさつてみて下さい。浄化されているのが分かると思いますよ。

地面に落ちる前の花びらをキャッチしていただいて、お守りとして持ち歩いてほしいでしょう。

ということで、春は「お花見」の季節です。お花見に行つた際はマナーを守つて、そのパワーにあやかれるよう、開運アクションを意識なさつて、ぜひ行つてみて下さいね。何時もとはひと味違うお花見を満喫できるものと思えます。美しい花を一気に咲かせ、短期間で散つてしまう桜だからこそ、強いパワーを秘めています。そんな桜のパワーを味方につけて、新しい年度をスツキリと迎えましょう。

合掌 副住職 谷川寛敬



YouTube みてね ♪

YouTube 寛敬の部屋

YouTube 寛敬の部屋